

水戸の人物たち(一部)  
 のことを  
 よく知ろうよ  
 第4869号  
 発行元  
 城東新聞社

横山大観さん

とは、日本画家で、主に「板谷波山」「富士山」などの作品が知られている。

大観は、明治元年九月十八日、城東二丁目に生まれる。明治二十二年、東京美術学校(現在の東京芸術大学)の第一期生として入学。二十六さいで卒業。後に美術学校の教師となりました。その時に雅号を「大観」と称しました。岡倉天心と共に、「日本美術院」を創立。明治三十九年、五浦の海岸に、日本美術院の研究所を移す。

六十四さいの時に、帝室技芸員を仰せつけられる。

七十さいの時に、日本画部門から、第一回文化勲章の栄誉を受けてから、日本画家として、最も優れた人として世間から認められるようになりました。昭和二十九年、板谷波山と共に、茨城県名誉県民賞を受け

昭和三十三年、二月二十六日に、九十一さいで永眠。晩年は多くの富士山をかきました。  
 ★年表はコチラ

第一回文化勲章を受章。  
 ↳日本画家として最も優れた人として世間から認められる。  
 昭和29年 → 板谷波山と共に茨城県名誉県民賞を受け  
 昭和33年 → 2月26日、永眠

明治22年 → 東京美術学校の第一期生として入学。  
 26さいで卒業。  
 明治31年 → 天心と共に日本美術院を創立。  
 明治39年 → 五浦の海岸に美術院の研究所を移す。  
 明治40年 → 文展の審査員となる。が、ことごとく意見が合わず。  
 明治44年 → 審査員から除名。大観は41歳で帝室技芸員を仰せつけられる。  
 大観70歳 → 日本画部門から



横山大観のこころな一面!  
 横山大観は「ヘビースモーカー」だった!!  
 ...らしいです。その写真を入手!!  
 まさしくたばこを吸っている!!  
 この他にも、お酒が大好きだった

それで、お酒を飲みながら、絵をかきほびたのだとか。  
 以上、横山大観のこころな一面でした。

横山さんの先生  
 岡倉天心さん  
 本名を「岡倉覚三」といい、文久二年、神奈川県横浜に生まれる。

明治十三年、東京大学を卒業後、文部省へ就職し、草創期の美術行政に携わりました。  
 明治頃からは、文部省九鬼隆一に代り、本格的に古社寺調査を行った。

明治十九年、フェロサと共に、欧米各国の美術教育情勢を視察しました。帰国後、国画取調委員として、東京美術学校(現東京芸術大学)の開校準備を開始しました。開校後の明治二十三年、二十七さいで、東京美術学校の

二代目校長となつてから、近代国家にふさわしい、新しい絵画の創造をめざしました。

そして、横山大観、下村観山、菱田春草などの、気鋭の作家を育てました。

その他にも、常陸山谷衛、清水正健、白石庄次郎、陸軍大臣などがいいます。興味のある方は、ぜひ調べてみて下さい。

横山大観と、そのまわりの人物についてのことがよく分かりました。とくに、大観は「ヘビースモーカー」だったというのには、自分もとてもおもしろかったです。